

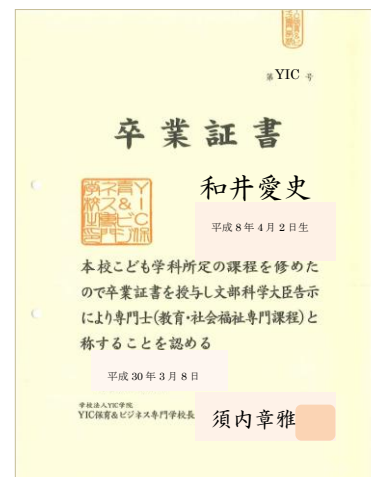


○卒業式Ⅱ

前回号からいろいろなことを考えています。「式は誰のためのものか？」というごく単純なことも思います。当然第一に挙げられるのは卒業生本人のためですね。次に挙げられるものを取り上げてみると、保護者・家族のため、友人同士のため、教職員（本校だけでなくこれまでの出身校も）のため、来賓のため、地域のため、日本のため、地球のためなどが出てきました。あとの二つは大きすぎるかもしれませんが。「日本のため」は、卒業までに税金が使われている部分もあると考えれば関係なくもない。「地球のため」は、学んだ知識・経験は関係するであろうと考えたからです。

「～ため」というのは、「感謝の気持ちを表す。」ということでもあるでしょう。自分自身の頑張りに感謝、家族に感謝などです。本校の卒業式は比較的シンプルに進行していくようです（私自身は初めてなので）。式の中でその感謝の気持ちを表現する方法にはどんなものがあるのでしょうか。在校生の代表が述べる送辞や卒業生の代表が述べる答辞は最も具体的に表現できる場面です。小・中学校などではそのほかに「旅立ちの歌」や「蛍の光」などの歌声でパフォーマンスする機会がありますが、本校で歌う曲は「君が代」だけのようです。この時に気持ちを込めることはできるでしょう。代表以外の卒業生にとっては呼名に対する返事がほぼ唯一のことばのパフォーマンスといえます。これも大切です。ことばは発しなくとも座っているとき・立った時の姿勢や視線（眼差し）、歩き方でも表現できるかもしれません。このような様々な卒業式でのパフォーマンスを保護者や来賓の方々など多くの人が見つめています。自分自身そして家族・友人などのためにも立派な式を創り上げてほしいと思っています。卒業生一人ひとりの心の中では一番に感謝の気持ちを込めるのは誰でしょうか？人によって様々でしょう。これはあえて聴かないでおこうと思います。一人ではないでしょうし。

本校の卒業証書（見本）
名前は文字入力で作りました。



自画自賛

私は卒業証書の浄書をこれまでずっと自分で行ってきました。数名のときもあり、百数十名のときもありでしたが、少しだけ自慢できることの一つです。今年もそうしてみようと思います。書写（毛筆）は専門的に学んだわけではないので決して立派な文字ではありませんが、心を込めて書きたいと思っています。毎年その作業をしているときに思い浮かべることは、その子（児童・生徒・学生）の名前に込められた「家族の思い」です。私のご家族に直接出会ったりお話をすることは本校ではあまり多くありませんが、今年もかなり具体的に想像できることでしょう。